

**令和元年度
第5回 市民と議会との意見交換会
(出された意見と検討結果)**

伊 那 市 議 会

目 次

■意見交換会の概要	・・・	1 p
-----------	-----	-----

■意見交換会で出された意見と検討結果	・・・	2 p～
--------------------	-----	------

I 主な検討テーマについて

1 通学道路の安全対策について（総務文教委員会）	・・・	3 p
2 区への未加入対策について（総務文教委員会）	・・・	6 p
3 交通弱者対策について（社会委員会）	・・・	7～8 p
4 子育て支援策について（社会委員会）	・・・	9～10 p
5 ごみの不法投棄について（社会委員会）	・・・	11 p
6 観光における地域資源の有効活用について（経済建設委員会）		12 p
7 中心市街地の活性化策について（経済建設委員会）	・・・	13 p
8 道路整備について（経済建設委員会）	・・・	14～16 p
9 森林整備について（経済建設委員会）	・・・	17～18 p

II その他の意見	・・・	19 p
-----------	-----	------

意見交換会の概要

令和元年8月20日（火） 19：00～21：00

◆ 富県公民館（富県ふるさと館）

- ・道路問題について
- ・山林問題（松くい虫対策）について

参加者数：31名

◆ 西箕輪公民館（ぬくもり館）

- ・観光地における諸課題について
サブテーマ「人口増による住環境の整備について」

参加者数：18名

◆ 手良公民館（てらとぴあ）

- ・道路・交通問題について
- ・森林整備について

参加者数：24名

令和元年8月22日（木） 19：00～21：00

◆ 東春近公民館（春近郷ふれあい館）

- ・道路問題について
- ・交通弱者（免許返納）について

参加者数：8名

◆ 長谷総合支所

- ・人口減少時代を迎えての地域活性化について
サブテーマ「地域資源をいかに活用するか」

参加者数：16名

◆ いなっせ（生涯学習センター501・502 会議室）

- ・通学の安全確保について
- ・市街地の活性化について

参加者数：18名

「第5回 市民と議会との意見交換会」

I 主な検討テーマについて

番号	市民からの意見	担当委員会
1	通学道路の安全対策について	総務文教委員会
	(1) 学校と地域連携による安全対策の実施状況と見守り隊について (2) 通学路のグリーンベルトの設置状況について (3) 通学路の防犯灯の設置状況について	
	2 区への未加入対策について	
3	交通弱者対策について	社会委員会
	(1) 高齢者の移動手段について (2) 買い物弱者支援策について	
4	子育て支援策について	
	(1) 世代間交流について (2) 子供の遊び場の確保について	
5	ごみの不法投棄対策について	
6	観光地における地域資源の有効活用について	経済建設委員会
7	中心市街地の活性化施策について	
	いなっせの有効活用について	
8	道路整備について	
	(1) 主要幹線道路への接続道路について (2) 交通量の多い生活道路の改善について (3) 支障木の処理について	
	9	森林整備について
	(1) 松くい虫対策について (2) 担い手確保について	

検討テーマ	担当委員会
1 通学路の安全対策について (1) 学校と地域連携による安全対策の実施状況と見守り隊について	総務文教委員会
市民から出された意見・課題	
<p>通学路の安全対策については、学校と保護者、地域がどのように連携をして取り組んでいるのか。</p> <p>①通学路は保護者が関わって決定されているのか。 ②学校と地域、保護者が関わる具体的な対策はどのようなものがあるか。 ③地域と伊那市安全協会の関わり、また対策はどうか。 ④見守り隊の現状（校区ごとの人数）と課題 ⑤見守り隊の減少対策について具体的な取り組みがあるか。</p>	
現状・市の対応（学校教育課）	
<p>①通学路は保護者が関わって決定されているのか。 学校保健法により通学路の設定にはPTAや関係者が連携・調査し、その結果から安全性を考慮した上で学校長が決定することとなっており、当市もこれに準じている。</p> <p>②学校と地域、保護者が関わる具体的な対策はどのようなものがあるか。 (ア) 年度当初に保護者が作成した「環境調査票」を基に子供がどのようなルートで学校へ通うのかを家庭と学校とで共有し、家庭付近の支線から通学路へ確実に入っていくよう具体的な指導を行っている。 (イ) ①を経て、5月頃に地区児童会、生徒会で通学路の確認を行い子供同士でも情報共有を図っている。 (ウ) PTAが中心となって通学路の問題点を整理し区へ報告後、春先の市と区とで行う現地調査等の場で区要望として危険箇所を挙げてもらっている。 (エ) グリーンベルトの設置個所について、地区役員と保護者とが一緒になって現地踏査を行っている。</p> <p>③地域と伊那市安全協会の関わり、また対策はどうか。 昨年度、安協から市教委にPTAが行っている「通学路安全確認」に関わり合いを持つことも可能との見解が示された。これを受け、市教委から校長会に各学校から安協に順次協力を要請していくよう指示を出した。</p> <p>④見守り隊の現状（校区ごとの人数）と課題 ⇒ 別紙集計のとおり</p> <p>⑤見守り隊の減少対策について具体的な取り組みがあるか。 子供の交通安全対策は、信州型コミュニティースクール事業の学校運営の項目に「安全確保」として位置付け、既に組織されている団体、PTAの協力者の減少に歯止めをかけようと、「より良い環境推進会議」等を通じ協力を依頼しているが、現在のところ見守り隊に特化した具体的な対策は行っていない。</p>	
検討結果	
<p>通学路については、PTAと学校等関係者が連携し、安全に考慮したうえで決められている。また危険箇所については、PTAが中心となって現地確認のうえ、地区へ報告していくなど、学校や地域、保護者が連携しながら安全対策をとっている。</p> <p>さらに、伊那市交通安全協会は、昨年、教育委員会へ「通学路安全確認」に関わる可能性を示しており、地域の見守り隊が減少しているなかで、地域一体となって子供の安全を確保する対策が推進されていると認識した。</p> <p>しかしながら、見守り隊の担い手不足については具体的な方策がないため、伊那市として統一化を図り、研修や意見交換会などの場を設けることについて検討されたい。</p>	

検討テーマ	担当委員会
<p>1 通学路の安全対策について (2) 通学路のグリーンベルトの設置状況について</p>	<p>総務文教委員会</p>
<p>市民から出された意見・課題</p>	
<p>①伊那市第1次総合計画の実施状況に安全対策のために設置を行ったとあるが、通学路の安全対策として、ある区域でのグリーンベルト設置の声があった。現在の伊那市のグリーンベルトの設置状況と設置における課題は何か。（設置箇所の地図を添付）</p> <p>②設置における課題は何か。（国・県道路併せて）</p> <p>※グリーンベルト 歩道のない道路の交通安全対策で、歩道と車道を区分するために設けられた緑地帯のこと</p>	
<p>現状・市の対応（建設課）</p>	
<p>【市道について】 グリーンベルト設置は、交通安全施設工事として市が発注する場合と、建設工事等支給事業を活用して各区で設置する方法があり、各区からの要望を受け予算の範囲内で設置又は材料の支給をしており、今後も継続して実施する。 （これまでのグリーンベルト設置状況は別紙のとおり）</p> <p>【国・県道について】 道路管理者である伊那建設事務所に確認したところ、設置状況や今後の予定をまとめた資料は特段無いとのことだったが、地元要望に基づき予算の範囲内で対応していただいている。 最近では、与地辰野線の上戸地籍や南箕輪沢渡線の下島地籍、美篤箕輪線の手良地籍等に設置された。 市としても、道路利用者の安全が確保されるよう引き続き危険個所の把握に努めるとともに、地区等からの要望を県へ伝えていく。</p>	
<p>検討結果</p>	
<p>グリーンベルトの設置については、地区から市へ要望をしていくこととなっていて、地区と市で合同で行われる春の現地調査の前に、地区とPTAで現地踏査を行い、設置希望があれば市へ要望という流れである。 市は予算が限られているため、通学路とあって優先されるわけではなく、実情に応じて進めていく状況である。</p> <p>当委員会では、グリーンベルトが年々設置されていることを確認した。通学路のグリーンベルト設置は、その地区の生徒に限らず利用されるため、各地区から市または県に対して要望が出しやすいように周知をすることや各地区で設置された場合は、学校を通じて設置された事、場所などを住民に知らせることが必要であると考えます。</p>	

検討テーマ	担当委員会
<p>1 通学路の安全対策について</p> <p>(3) 通学路の防犯灯の設置状況について</p>	<p>総務文教委員会</p>
<p>市民から出された意見・課題</p>	
<p>①通学路の安全対策として、防犯灯も一つの手段であるが、通学路の防犯灯の設置や管理はどのように行っているか。 (例えば、学校から地区へ連絡して設置する、学校から市へ直接かなど)</p> <p>②今後、防犯灯のLED化は進められるのか。</p>	
<p>現状・市の対応（危機管理課）</p>	
<p>①防犯灯の設置は、自治会で実施していただいております。伊那市としては、市防犯灯設置等補助金交付要綱に従い、市内各自治会からの設置申請を前提に、市役所担当部署（危機管理課防災係）による書類審査と現地調査を経て、要件を満たした申請灯に対し、予算の範囲内で設置費用の一部を補助しております。 なお、設置後の防犯灯は、地元自治会で管理していただいております。</p> <p>②市の補助対象となります防犯灯は、LEDのみですので、今後、設置・改修される防犯灯は、ほぼLEDとなる予定です。</p>	
<p>検討結果</p>	
<p>通学路の防犯灯の設置や管理は各地区で行っているのが現状である。設置については、地区からの申請により、認定されれば市から補助があり設置できるようになっている。</p> <p>通学路の危険箇所はPTAが主となり地区へ報告するため、市は、地区に対してPTA等関係機関と連携をとりながら申請することや、地区の予算内の設置となることを周知することが必要であると考えます。</p> <p>また、防犯灯設置要綱により地区と地区の境界や人家のない部分については、市から全額補助が見込まれるため、地元負担がないので、地域の連携を図りながら活用する旨、併せて周知をされたい。</p> <p>今後の補助対象となる防犯灯はすべてLEDとなる予定である。</p>	

検討テーマ	担当委員会
2 区への未加入対策について	総務文教委員会
市民から出された意見・課題	
<p>現在、移住定住などの人口増加対策の一方で、様々な価値観が認められる風潮もあり入区されない住民の増加も想定される。 第1次伊那市総合計画の実施状況を踏まえて伺いたい。</p> <p>①第1次の取組はどのくらいの効果があったのか。 ②自治会への加入しない理由と課題は何か。 ③入区しないことに対し、市の考え方は。 ④第2次総合計画の目標に対しての進行計画案と、またそれに基づき具体的な取組があるのか。</p>	
現状・市の対応（地域創造課）	
<p>①最近10年間の自治会への加入率は、平成22年(78.9%)から平成26年(75.8%)まで減少していたが、平成26年以降は、概ね75%前後で推移しており、加入率の減少を抑止している。移住相談等で、地域との関わりを持って、安心・安全な暮らしができるよう加入を進めている。また、加入促進パンフレットを活用して、未加入者へ加入の案内をする区もあった。</p> <p>②入区費や区費が高額であること、また、入区費がどのように活用されるのかが不明という声が寄せられている。また、高齢等の理由により、役員を受けることができないといったことが理由であげられる。地域の担い手の確保という点からも、入区費や区費、役員負担の等の軽減が課題と考える。</p> <p>③自治会に加入することは義務ではないため、強制はできない。しかし、万が一の災害等の際には、隣近所などのコミュニティでの活動が不可欠であり、お互いに協力することが必要である。また、自治会の運営や活動が継続的になされるには、担い手となる人材が必要となる。これらの点においても、市として加入の促進に取り組んでいる。</p> <p>④自治会への加入は、強制できないため、加入促進に向けた地道な取り組みが必要になる。地域の教科書をさらに見やすいものに改定し、各地域の魅力の発信に努めていきたい。また、受け入れる自治会の体制の構築（例えば、入区費や区費、役員負担の軽減等の検討も含む）も必要であり、自治会役員と連携をとる中で、さらなる加入促進に努めていきたい。</p>	
検討結果	
<p>最近10年間の自治会への加入率は、おおむね75%で横ばいの状況である。市でもパンフレットや「地域の教科書」などで加入を働きかけているが、思うようには加入率はよくなると思われない。</p> <p>その原因として、入区費や区費が高いこと、使途が不明であるという意見、また、高齢化のために入区して役員になることが負担になるといった理由もある。</p> <p>自治会への負担は強制的ではないが、加入に向けてある程度の対策をする必要がある。一例として、伊那市全体で入区費等の統一化や、役員の負担を軽減する措置等を早急に検討し、全市で実施できる仕組みづくりが必要であると考えます。</p>	

検討テーマ	担当委員会
3 交通弱者対策について (1) 高齢者等の移動手段について	社会委員会
市民から出された意見・課題	
<p>AIによる自動配車サービス（ドアツードア乗合タクシー）について</p> <p>①運行エリアの拡大順序と全地区での本格運行開始時期</p> <p>②具体的な料金設定と身障者の介添者への割引の有無</p> <p>③利用者の年齢制限の有無</p> <p>④本格運行後、現行の公共交通はどうか。廃止や運行数の見直しを行うのか。</p>	
現状・市の対応（企画政策課）	
<p>①令和2年度から市内一部地域で本格運行を開始し、順次運行エリアの拡大を図る予定ですが、拡大順序や全地区での本格運行開始時期につきましては、本格運行の分析等を踏まえ、今後、地域公共交通会議・協議会で協議していただき、決定します。</p> <p>②具体的な料金設定については検討中です。障害者手帳をお持ちの方の介添者への割引につきましては、鉄道やバスの状況を踏まえて検討します。</p> <p>③車両台数に限りがありますので、利用登録ができる方は、移動支援・買い物支援の観点から、対象年齢を65歳以上とさせていただく予定です。なお、運転免許返納者や障害者手帳をお持ちの方につきましては、65歳未満であっても対象とさせていただく予定です。</p> <p>④現行の公共交通については、利用状況等を踏まえ見直しを実施する予定です。</p>	
検討結果	
<p>①②について 協議・検討結果の速やかな情報発信に努めること。</p> <p>③について 65歳未満で元々免許証を持たない市民もおおり、免許証返納者との公平性を考えると対象者とすべきである。また、子供の通学手段の確保が困難な地域もあり、一律な制限を設けるのは難しいと考える。柔軟な対応策を検討されたい。</p> <p>④について 本格運行開始後の状況をよく見極め、地域に適した公共交通の見直しが必要である。</p>	

検討テーマ	担当委員会
3 交通弱者対策について (2) 買い物弱者支援策について	社会委員会
市民から出された意見・課題	
<p>高齢による免許証返納等で買い物に行けない人が増えている。</p> <p>①現在の移動販売の実施地域はどこか ②新たな訪問販売実施希望者がいると聞いているが、販売予定範囲と開始時期はいつか ③移動販売が実施されない地域への支援策は考えているか</p>	
現状・市の対応 (福祉相談課)	
<p>①現在の移動販売の実施地域はどこか 市の補助金を活用した販売者の実施地域は、高遠町、長谷、新山地区になります。</p> <p>②新たな訪問販売実施希望者がいると聞いているが、販売予定範囲と開始時期はいつか 販売範囲は、当面、平沢・横山・西春近小屋敷等の西部地区、手良地区及び富県地区を予定しています。 開始時期は、令和2年2月を予定しています。</p> <p>③移動販売が実施されない地域への支援策は考えているか 移動販売の販売範囲の拡大に加え、実際に支援を必要している方のニーズはそれぞれ異なることから、市では 買い物や通院などの移動支援や環境整備として、主に下記の取組を実施しています。</p> <p>(ア) 運行に関する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那市地域公共交通協議会による路線バス、乗合タクシーの運行 ・伊那地域定住自立圏（伊那市・箕輪町・南箕輪村）による路線バスの運行 ・地区社協等が運行するボランティア移送の運行 ・NPO法人等が実施する福祉有償運送の運行 <p>(イ) 補助・助成による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許自主返納者への助成制度の実施（運転履歴証明書の取得費用の助成） ・免許返納者に対するバス・乗合タクシー運賃の割引制度の実施（運賃の半額を割引） ・福祉タクシー、タクシーの乗車料金への助成（高齢者・障害者） <p>(ウ) 新産業技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローン物流、ドアツードア乗合タクシー（AI） <p>※実証実験等を行っている段階であり、今後本格的に運用する予定</p>	
検討結果	
<p>様々な取り組みが行われており評価できる。 移動販売の事業主や利用者の声などを市報に掲載し、新たな事業主確保に努められたい。 地区社協で運行しているボランティア移送の利用条件等が地区により異なり、利用頻度の開きが見られる。利用の促進のために各地区社協の利用条件等の統一が図られるよう検討されたい。</p>	

検討テーマ	担当委員会
4 子育て支援策について (1) 世代間交流について	社会委員会
市民から出された意見・課題	
<p>地域住民の世代間交流が不足している。近所の子供、近所のおじいちゃんおばあちゃんの顔も知らない人が増えている。</p> <p>地区ごと、気軽に参加できる、世代を超えた交流の機会づくりが必要ではないか。</p> <p>また、交流の場の一つとして、各地区に整備された「いきいき交流施設」が考えられるが、世代間交流での利用はどの程度あるのか。</p>	
現状・市の対応(社会福祉課・子育て支援課・生涯学習課)	
<p>【社会福祉課】</p> <p>近年、少子高齢社会が問題化されて久しく、核家族化も進み、現代の社会的背景も相まって、家族以外の大人と子どもとの関わりも希薄になっている現状があります。伊那市でも高齢化率は30%に達していますが、生活が多様化して地域のつながりが希薄になり、高齢者の知識や技術を伝承する場が少なくなっています。個人の趣味などを生きがいとしている人が多くなっていると考えられますが、孤立することのないよう、地域での交流などを通じて、生きがいをもって元気に生活できるよう、活動を支援しています。</p> <p>①高齢者の知恵袋事業 高齢者の優れた知恵や技術を次世代に伝承することを目的に、地域や学校などで行う知恵袋事業に対し助成を行っています。 (高齢者が長年培ってきた知恵や技術などを子どもなど次の世代に伝承する事業に対し、その実績に応じて実費を支給。1事業当たり上限50,000円 例:しめ縄づくり、畑や花壇づくり、昔の遊び、昔話を語る会、地域の文化・伝統芸能・郷土史などの伝承活動、子どもや青年等との交流活動) <実績>H29:15事業、H30:15事業、H31(12月現在):15事業</p> <p>②高齢者クラブ活動助成事業 高齢者の健康増進、教養の向上、レクリエーション、地域社会との交流を図るための社会奉仕活動や健康づくり事業等を行う、市単位高齢者クラブの活動費への助成を行っています。 (①友愛活動:近隣の高齢者訪問など在宅福祉を支える活動、子どもの見守り隊など ②知恵袋事業活動:地域の文化、伝統芸能、郷土史などの伝承活動 ③奉仕活動:花いっぱい運動など 高齢者クラブが実施する各事業に対する補助。1事業当たり上限10,000円) <実績>H29:65事業(うち子どもとの交流あり12事業)、H30:66事業(うち子どもとの交流あり15事業)、H31(12月現在):49事業(うち子どもとの交流あり11事業)</p> <p>③世代間交流を視野に入れた施設整備 美篤世代間交流施設(ほっとセンターみすず)や、その他いくつかの施設においては、世代間交流をコンセプトに取り入れた施設整備を行っており、それらの施設では、保育園児、小学生、高齢者等の交流事業等を行っています。 また、国においても高齢者、障がい者や子どもが、家族や近隣住民と共に住み慣れた地域で生活するための、安全で家庭的な雰囲気のもと、利用者のニーズに応じたきめ細やかなサービスを提供する地域ケア拠点として、「宅幼老所(地域共生型サービス)」の整備やサービスの推進を行っています。 H31.4.1現在で高齢者及び子どもに係るサービスを提供している市内の宅幼老所は5事業所あります。(長野県HPより)</p> <p>【子育て支援課】</p> <p>少子化が進み、集落の中で子ども同士が遊んだり、地域の方とふれあったりする機会が少なくなっている今日において、保育園と地域との交流は重要な役割となっています。</p> <p>市内の全公立保育園では、地域運営委員会を設置し、地域との連携を図るとともに、保育園毎で様々な交流を行っています。</p> <p>①地域の方から野菜作りなど指導をうけ、収穫した野菜を使った給食交流。 ②地域の高齢者クラブや福祉施設へ出かけて歌の発表やふれあい交流。 ③地域のお祭りへの参加や、餅つきやしめ縄づくりなど地域の方を招いての体験交流。</p> <p>【生涯学習課】</p> <p>①公民館事業において、世代間交流を行う機会を設けています。(おいで塾、講座参加者と保育園児との交流など。) ②各地区の「いきいき交流施設」の多くは、市立公民館の分館にあたる施設でもあるため、各分館の役員を中心に、様々な行事、講座を行う中で、世代を超えた地域住民が交流できる機会づくりに努めています。ただ、価値観等の多様化やライフスタイルの変化(平日、休日の過ごし方)などから参加者が集まらないという課題もあります。</p>	
検討結果	
<p>現在、市としても様々な施策を行っており評価できるが、地域住民が知らない現状がある。今後、現施策を継続し広報に努めるとともに、地域に合った更なる取り組みに期待したい。</p>	

検討テーマ	担当委員会
4 子育て支援策について (2) 子供の遊び場の確保について	社会委員会
市民から出された意見・課題	
<p>未就学児には雨天時に遊べる場所として子育て支援センターがある。土日祝日には上の原支援センターが開所している。 小学生以上の子供の遊び場がない。また、年代の違う兄弟を同時に連れて行ける場所がない。 どの年代の子供も遊べる児童館等、屋内施設の必要性について市の考えは。</p>	
現状・市の対応（生涯学習課）	
<p>①新たな施設整備は考えていませんが、各地区に整備された「いきいき交流施設」などを活用し、世代間交流を行いながら、子供の居場所・遊び場として活用していただければと思います。 ②図書館では、それぞれの年齢層を想定して選書し、蔵書を揃えています。図書館は遊ぶ場所ではありませんが、年代の違う兄弟でも楽しめる本があります。雨天時だけでなく、図書館をご利用いただければと思います。 ③児童館等とは違うため、「子供の遊び場」という主旨で公民館を開放することはしていませんが、長期休暇期間や土日の子供の居場所づくりとしての講座（囲碁、将棋教室、工作、夏休みおいで塾、等）を開催しています。</p>	
検討結果	
<p>雨天時の子供の遊び場として屋内施設は必要と考える。既存施設の空きスペースの利用等を含め検討されたい。</p>	

検討テーマ	担当委員会																														
5 ごみの不法投棄対策について	社会委員会																														
市民から出された意見・課題																															
<p>河川敷や林道脇、山間地域などへの不法投棄が散見される。伊那市内での不法投棄の現状はどうなっているのか。 また、不法投棄に対する具体的対策と効果は。</p>																															
現状・市の対応（生活環境課）																															
<p>一度に大量のごみが捨てられる不法投棄は減少していますが。道路脇や河川敷などへのポイ捨ては相変わらず無くなってはいません。</p> <p>①不法投棄の防止はモラルによるところが大きいと、広報誌などによる啓発運動を継続しています。 ②非常勤職員による不法投棄巡視を毎日行っており、不法投棄を発見した場合には迅速に回収しています。 ③衛生自治会などと連携し、河川一斉清掃やごみ拾いを行うことにより、ごみを捨てるにいい環境を作っています。 ④衛生自治会の活動として、毎年、9月から10月にかけて不法投棄監視強化月間を設定し、のぼり旗による啓発及び巡視を行っています。 ⑤不法投棄の多発地点には監視カメラを設置し、対策を行っています。 ⑥大量な不法投棄などの際には警察と連携し、厳正に対処しています。</p> <table border="1" data-bbox="260 1326 1281 1570"> <thead> <tr> <th colspan="5">不法投棄回収量の推移(災害廃棄物含む)</th> <th>(t)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>H29</th> <th>H28</th> <th>H27</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>可燃ごみ</td> <td>81.10</td> <td>97.11</td> <td>52.65</td> <td>51.05</td> <td>76.17</td> </tr> <tr> <td>不燃ごみ</td> <td>7.81</td> <td>12.44</td> <td>48.39</td> <td>43.80</td> <td>38.59</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>88.91</td> <td>109.55</td> <td>101.04</td> <td>94.85</td> <td>114.76</td> </tr> </tbody> </table>		不法投棄回収量の推移(災害廃棄物含む)					(t)		H30	H29	H28	H27	H26	可燃ごみ	81.10	97.11	52.65	51.05	76.17	不燃ごみ	7.81	12.44	48.39	43.80	38.59	計	88.91	109.55	101.04	94.85	114.76
不法投棄回収量の推移(災害廃棄物含む)					(t)																										
	H30	H29	H28	H27	H26																										
可燃ごみ	81.10	97.11	52.65	51.05	76.17																										
不燃ごみ	7.81	12.44	48.39	43.80	38.59																										
計	88.91	109.55	101.04	94.85	114.76																										
検討結果																															
<p>不法投棄に対する啓発運動の継続とともに、幼少期からの教育の充実を図りたい。市内の環境整備（草刈り等）により「捨てづらい」伊那市にすることも施策の一つとして実践されたい。</p>																															

検討テーマ	担当委員会
6 観光における地域資源の有効活用について	経済建設委員会
市民から出された意見・課題	
<p>①ジオパーク、エコパークを観光資源としてどのようにして活かしているのか。また、今後どのように展開していくのか。</p> <p>②市民、とりわけ地元住民に対する周知が不足し、資源を活かしきれていないのではないかな。</p>	
現状・市の対応（観光課）	
<p>①ジオパーク・エコパークを目的として来訪される観光客はごく限られているのが実情ですが、南アルプスの山岳観光（登山、トレッキング等）の付加価値として、また、「花（桜、紅葉等）」、「食（そば等）」といった他のコンテンツと組み合わせ活用、PRをしていくことで、伊那市全体の観光の魅力アップにつなげていければと考えています。</p> <p>②とも関連しますが、誘客と住民への普及啓発を兼ねて、観光課の企画で北沢峠経由のトレッキングツアーや登山ツアーを実施しています。登山やトレッキングの中にジオパーク・エコパークの視点での案内を入れ、より魅力的なツアーになるよう努めています。こうしたツアーは、将来的には民間において実施されるように進めていきたいと考えています。</p> <p>②市民への周知については、小学生向けに、エコジオツアーの実施、南ア、中アのパノラマ写真入りの定規配布、夏休みの公民館講座（おいで塾等）等を行っています。一般向けでは、公民館での講座の実施やシンポジウムの開催、環境展への出展等等により周知を図っています。特に近年は公民館向け講座の充実を図り、公民館とも連携しながら進めているところです。</p> <p>様々な機会を通じて周知、啓発に努めているところですが、市民への周知は特効薬的なものがないため、地道な活動を今後も継続していきたいと考えています。</p>	
検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・ジオパーク、エコパークについては、引き続きガイド養成講座を開催するなど普及に努められたい。 ・国道152号沿線は、露頭のほかに高遠石工、高遠そば、鹿嶺高原、分杭峠など、資源も豊富である。広域的な連携も含めて国道152号沿線の活性化策について検討を進められたい。 	

検討テーマ	担当委員会
<p>7 中心市街地の活性化施策について</p> <p>～いなっせの有効活用について～</p>	<p>経済建設委員会</p>
<p>市民から出された意見・課題</p>	
<p>①いなっせの建設は、駅前再開発と市街地の活性化が当初の目的とされていた。現在、生涯学習センターとして多くの講座やイベントが実施されているものの、当初の目的に対する市の考えは。</p> <p>②いなっせを市街地活性化の中心とする取り組みが見えてこない。どのような取り組みが行われているか。</p> <p>③市街地（商店街）に人を呼ぶためにも、いなっせ駐車場を2時間無料にすべきではないか。</p>	
<p>現状・市の対応(都市整備課・文化交流課・商工振興課)</p>	
<p>①【回答:都市整備課・文化交流課】</p> <p>伊那市駅前再開発や市街地の活性化については昭和50年代から検討が行われてきました。再開発事業は核となる施設が必要となるため、現在のいなっせを含む地区では、当初、大型商業施設を核とした事業計画を立案しましたが、経済情勢等の変化により平成9年に計画を断念しました。その後、計画地区を縮小したうえで、生涯学習センターを核とした計画に変更し、平成15年にいなっせが竣工しました。</p> <p>平成30年度の生涯学習センターの利用者数は延べ約15万5000人でした。また、いなっせ管理組合でも商店街と協力して様々なイベントを行っています。土地の合理的かつ健全な高度利用や都市機能の向上とともに集客施設や市営立体駐車場を配置して中心市街地の活性化を図る、という当初の目的に対し、一定の成果をあげているものと考えています。</p> <p>【回答:商工振興課】</p> <p>「いなっせ」は、駅前再開発事業の一環において、当初の目的に沿い生涯学習センターとして運営しています。本施設は、本市における交流の拠点施設として、また、中心市街地のランドマークとして、日々市内外の方々や高校生などが集う場として大いに活用されています。施設利用者は食事などで商店街を利用するなど、市街地の活性化に一定の効果があるものと考えます。また、「いなっせ」北側の広場やセントラルパークを一体的に活用したイベントも様々開催されるなど、周辺への波及効果はあるものと考えます。</p> <p>②【回答:商工振興課】</p> <p>現在、市街地の賑わいを創出するイベントは「セントラルパーク」での開催が中心となっています。また、このような取り組みに対し、市としても支援しているところですが、イベントによる賑わいは一過性によるものが多く、日常において日々人々が集う「いなっせ」は、市街地活性化の中心的役割を担っていると考えています。</p> <p>市としても、各種団体との共催等により、研修会、講演会などについて積極的に本施設を活用するよう取り組んでいるところですが、これは市街地への誘導のきっかけに過ぎず、中心市街地の活性化は、地域や事業者の力なくして成し得るものでなく、商店街で事業を営む組織・個人自らが店舗の個性を發揮し、商店街の魅力や楽しさを対外的に発信する取り組みによって達成されるものであることから、そのために求められる支援施策について取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化事業補助金 ・中心市街地空き店舗等活用補助金 ・市との共催による「いなっせ」の減免措置 ・セントラルパーク使用料減免措置 ・空き店舗見学会の開催 <p>③【回答:都市整備課】</p> <p>伊那市営駐車場は、公募により選定した指定管理者が運営を行い、利用料金は、1時間以内は無料で、以後1時間ごとに100円としており、全駐車場の年間の時間駐車利用台数約64万台のうち約64%が無料駐車車で、再開発ビル(いなっせ)駐車場は、年間約30万台のうち約55%が無料駐車となっています。</p> <p>商店街の活性化策として、通り町商店街の店舗が買い物客に発行する無料駐車券は、各店舗の負担額を1時間あたり50円とし、通り町商店街以外の店舗等向けに回数券(100円券50枚4000円(20%割引)、100円券11枚1000円(9%割引))を用意していますので、買い物客は1時間以上であっても無料で駐車することができます。</p> <p>郊外の店舗は各自で駐車場を用意していますので、公平性に課題があります。また、近隣の民間の時間貸し駐車場では無料時間を設けているところは少なく、経営を圧迫する懸念があります。</p> <p>以上のことから、駐車場利用料金を2時間無料とすることは考えていません。</p>	
<p>検討結果</p>	
<p>いなっせ管理組合と周辺商店街、商工会議所等の連携を強化し、活性化に向けた更なる取り組みが必要である。また、駐車場については、1時間無料の現状から1時間以内の利用者が多くなっているとも推測される。現在の取り組みのほか、以下の点について検討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなっせ管理組合、周辺商店街、商工会議所等による意見交換会の開催 ・月に一度、歩行者天国(いなっせ前～セントラルパーク)の開催 ・市営駐車場2時間無料の試験的实施 ・駅前周辺(いなっせ1階等)に観光案内所の設置 	

検討テーマ	担当委員会
8 道路整備について (1) 主要幹線道路への接続道路について	経済建設委員会
市民から出された意見・課題	
<p>①国道153号伊那バイパスや伊駒アルプスロード、環状南線など主要幹線道路の整備が進む中、接続道路についてどのように考えているのか。</p> <p>②接続道路については、地元地区以外の近隣地区への説明や周知も必要ではないか。</p>	
現状・市の対応（建設課）	
<p>①主要幹線への接続道路は、地区の生活道路として、また主要路線として重要な道路になります。 接続道路の計画にあたっては、県とともに概略設計の段階から地元地区へ計画案をお示しし、いただいた意見を踏まえながら詳細設計を行っております。詳細設計後も更に最良な形状となるよう、地元地区等と協議を重ねながら進めております。</p> <p>②接続道路の利用形態等により、地元地区以外の近隣地区にも大きな影響が生ずる場合は、近隣地区へも周知してまいります。</p>	
検討結果	
<p>①主要幹線道路等の整備の計画、進捗状況については、住民生活への影響も大きいため、区長会等での説明を検討されたい。</p> <p>②道路整備については、近隣地区も含め引き続き丁寧な説明に努められたい。</p>	

検討テーマ	担当委員会
8 道路整備について (2) 交通量の多い生活道路の改善について	経済建設委員会
市民から出された意見・課題	
①道路の維持補修への地域要望に対する市の考え方は。（要望がなかなか実現されない。） ②人口増加地区など交通量が多い生活道路を優先して整備ができないか。	
現状・市の対応（建設課）	
<p>①地区からの維持補修などの要望については、区にとりまとめを依頼し、提出していただいています。要望箇所は地区役員に案内いただき現地を確認する中で、緊急性、重要性、地域バランスなどを考慮し、地区と相談しながら実施しています。地域からの要望に可能な限り対応するため、毎年、追加予算をお認めいただいておりますが、要望に対し実施が追いついていないのが現状です。</p> <p>最小限の投資で高い効果が得られるよう、施工箇所や工法を決定し実施してまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>舗装の穴など緊急を要する小規模修繕については、要望の有無に関わらず随時実施しますので、発見次第、連絡いただきますようお願いいたします。</p> <p>②人口増加地区の道路整備を優先して実施すれば整備効果が高く理想的ですが、前述のとおり実施できる箇所は限られますので、集中投資することは困難な状況です。</p> <p>舗装の傷みが激しい幹線道路については、計画的に補修を進めてまいります。</p>	
検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活道路の重要性から、引き続き適正な予算確保に努められたい。 ・将来を担う子どもの安全を確保するため、通学路の安全対策に力を入れられたい。 	

検討テーマ	担当委員会
8 道路整備について (3) 支障木の処理について	経済建設委員会
市民から出された意見・課題	
①通行の妨げになる支障木や危険な樹木は、市において処理を進めるべきではないか。	
現状・市の対応(管理課)	
<ul style="list-style-type: none"> ・市道沿いの樹木については、所有者の責任に基づき、適切な管理を依頼しているところですが、明らかに危険なものについては、業者委託や職員により、枝払いや伐採を行っています。 ・停電の影響が見込まれる市道沿いの支障木については、中部電力と連携し、事前伐採を行う方向で検討しています。 ・本年度からは県の森林税を活用した、自然災害からライフライン（電線、道路等）を守るため、道路沿いの支障木の伐採を行う事業も取り入れており、伊那公園南側の市道（上の原幹線）沿いの支障木伐採を行う予定です。 ・引き続き、個人所有の樹木については適正な管理を呼びかけるとともに、中電との連携や県の事業を活用しながら対応していきます。 	
検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・支障木の放置による危険性（事故による賠償責任等）について、所有者への周知を強化するとともに、森林税を活用した支障木の伐採を推進されたい。また、必要に応じて地元区に協力を求めるなど連携についても検討をされたい。 	

検討テーマ	担当委員会
<p>9 森林整備について</p> <p>(1) 松くい虫対策について</p>	<p>経済建設委員会</p>
<p>市民から出された意見・課題</p>	
<p>①松くい虫対策に従事するマンパワー（事業所等）が不足しているのではないか。 ②森林税をもっと活用すべきではないか。（伊那市における実績はどうなっているか。）</p>	
<p>現状・市の対応(耕地林務課・50年の森林推進室)</p>	
<p>①現在伊那市では処理費用を抑えて多くの枯損木が処理できるように入札により業者を決定し、年間で単価契約している。（伊那市全域破砕処理、天竜川以東、天竜川以西の3つ） この契約する業者に加えて、松枯れの処理に意欲的な地元里山団体とも契約し、処理を進めている。地元里山団体に委託することで、所有者の把握、確認等がスムーズになるほか、地元にとってより松枯れ対策に効果的な処理が可能となった。事業体と比較すれば機材や技術などで限定的な側面はあるが、地域に松枯れ対策を意識させるために有効的だといえる。平成31年度（令和元年度）では6団体（桜井、新山、貝沼、上牧、手良中坪、野底）と契約しているが、令和2年度は8団体に増える予定である。</p> <p>②伊那市では国の森林病虫害等防除事業、長野県の信州の森林づくり事業、森林づくり推進支援金、松枯損木利活用事業といった補助金を活用している。その中でも森林税（森林づくり県民税）は森林づくり推進支援金と松枯損木利活用事業であり、平成30年度では森林づくり推進支援金が296万円、松枯損木利活用事業が300万円の補助を受けている。 平成30年度では上記2つの森林税を含め、伊那市では松くい虫対策事業費約5730万円のうち約3400万円が補助金で賄われている。各補助金には補助を受けるための条件や、国・県の予算枠があり市町村が申請すれば補助金額が一概に増えるわけではない。</p>	
<p>検討結果</p>	
<p>①松くい虫被害の拡大により対応が後手に回っている。引き続き林業従事者の育成や確保に努めるとともに、ドローン活用による被害木の早期発見など、被害抑制に向けた施策を展開されたい。 ②昨年9月、長野県議会において「松くい虫防除対策の強化を求める意見書」が議決され、国に対して意見書が提出された。経済建設委員会では、今後も県の森林税や国の森林環境譲与税の活用状況を注視し、必要に応じて県や国に対して働きかけを行っていく。</p>	

検討テーマ	担当委員会
<p>9 森林整備について</p> <p>(2) 担い手確保について</p>	<p>経済建設委員会</p>
<p>市民から出された意見・課題</p>	
<p>50年の森林（もり）ビジョンを推進するにあたり、これからの林業への担い手確保をどのように考えているのか。</p>	
<p>現状・市の対応(耕地林務課・50年の森林推進室)</p>	
<p>【現状】 現在の林業は高齢化が進むとともに、若者が就業しても長続きしないのが現状である。その原因として考えられるのは、不安定な現場でのチェーンソーによる伐倒や機械の運転など常に危険と隣り合わせの仕事の割には賃金が安いことがひとつの要因である。安全性と生産性を向上させ経済的な安定を確保することで、若者が持続的に従事できる産業になるものとする。</p> <p>【対応】 意欲のある若者が林業に就業しやすい環境を整えるために、林業事業者に対して新規就業者を雇った場合に補助金を出すなどして人材育成に努めている。伊那市50年の森林ビジョンを推進し、地域内で森林資源を活用し森林の循環を進めることで、林業だけでなく木材産業など木に関わるさまざまな産業が活性化され林業の安定につながるものとする。今後、伊那市新産業技術推進協議会のスマート林業部会において、高性能林業機械の導入等による安全性の確保や生産性の向上等についての研究を進めていく予定である。また森林整備に係る林業技術者の育成と森林資源を活かした新たな取組や商品開発など林業を担う人材を育成するために、地域おこし協力隊の募集も行っていく。</p>	
<p>検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地元産木材の活用を進めるとともに、地元産の木材を活用した製品コンテストを開催するなど伊那市の取り組みを広くアピールされたい。 ・林業の生産性の向上等については、伊那市新産業技術推進協議会のスマート林業部会において研究が進められる予定であるが、教育機関を含めた「産学官連携」についても検討されたい。 	

II その他の意見

1	道路整備・改善について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・野底下橋（通称いこじ橋）の拡幅と直線化。 ・手良八ツ手から福島への市道脇の木の伐採について（市道） ・美和ダム周辺の樹木の伐採と流木の除去が必要（国・県道） ・草刈りや伐採ができていない。 	
2	防犯灯について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯の増設と照明度（昼間でも暗い。上牧のぬすつと洞と上牧東部へ登る洞） ・防犯灯が壊れるため、申請回数を年に2回にして欲しい。（東部中） ・防犯灯が壊れるため、申請回数を年に2回にして欲しい。（東部中） ・夜間の防犯灯を増やして欲しい（伊那中） 	
3	通学路について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が歩くのに大変なので草刈りを。被っている木を切ってほしい。（東部中） ・小学校への大きな歩道の草刈りを（手良小） ・通学路のグリーンベルトの設置、ふるさと農道への歩道の設置（手良小学校） ・小学校の区域の交通安全周辺はゾーン30（30キロ以下）にすること ・耕作放棄地はクマの住処になる。藪を切るのがクマ対策に有効 	
4	弱者対策について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・手良・福島循環バスの本数増 ・手良野口の蟹沢地区はバスが通らないため不便 	
5	山林整備について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・松枯れ危険個所の木の撤去を早急に ・間伐を進め、健康的で生産的な山を次世代に残すため、荒れている林道と放置林を含めた森林整備 ・境界の確定 	
6	中心市街地活性化について	
	<ul style="list-style-type: none"> ・いなっせの「活性化センター」としての在り方 ・通り町へ人を誘導する工夫がない。 ・学習スペースを広く ・セントラルパークの緑化、いこいの場に ・情報発信が弱いため、イベント・観光の発信で人を集める ・通り町商店への駐車場の確保、いなっせの駐車場を2時間無料にすべき ・中心市街地は土・日・祝日には通行止めにして歩行者天国に ・ニシザワの3階の活用を ・プレミアムフライデーを継続して実施して欲しい ・バラサミットにもっと力を入れて人が集まるイベントに ・循環バスの夜間運行 	